

作成日	2015/1/23
改訂日	2016/6/1

# 安全データシート (SDS)

## 1. 製品及び会社情報

製品名 : レッドマーク 洗浄液/除去液 RN-1M エアゾール

会社名 : 栄進化学株式会社

住 所 : 茨城県常総市 内守谷町 4689-1

担当部署 : 茨城工場 化学技術課

電話番号 : 0297-27-9507 (緊急時連絡先)

FAX 番号 : 0297-27-9508

整理番号 : SRP-012-04A

推奨用途及び使用上の制限 : 浸透探傷試験用 洗浄液/除去液 不燃性

## 2. 危険有害性の要約

### 【GHS 分類】(分類されないもの、及び区分外は省略)

物理化学的危険性 : エアゾール 区分 3

健康に対する有害性 : 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分 3 (麻酔作用)

環境に対する有害性 : オゾン層への有害性 区分 1

### 【GHS ラベル要素】

絵表示 :



注意喚起語 :

**警告**

危険有害性情報 :

高圧容器:熱すると破裂のおそれ  
眠気又はめまいのおそれ  
オゾン層を破壊し、健康及び環境に有害

注意書き :

- 《安全対策》
- ・ 全ての安全注意(SDS等)を読み理解するまでは取り扱わないこと。
  - ・ 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙
  - ・ 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。
  - ・ 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
  - ・ 取扱い後は手をよく洗うこと。
  - ・ この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
  - ・ 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
  - ・ 必要なとき以外は、環境への放出を避けること。
  - ・ 必要に応じて保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 《応急措置》
- ・ 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
  - ・ 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
  - ・ 皮膚(又は髪)に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。
  - ・ 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを装着していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
  - ・ 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること。
- 《保管》
- ・ 容器を密閉して、涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。
- 《廃棄》
- ・ 内容物や容器は、国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分 : 混合物(エアゾール製品)

化学名 (成分名)		含有量 (wt%)	CAS No.	化管法*1	化審法*2(既存)	安衛法*3
内容液	ジクロロヘキサフルオロエタン (HCFC-225ca/HCFC-225cb=45/55%)	65	非公開	1-185	非公開	非該当
	ニトロメタン	0.1-0.3	非公開	非該当	非公開	429
噴射剤	フロン R-134a	30-40	非公開	非該当	非公開	非該当

\* 1 化管法 : 化学物質管理促進法=PRTR 法における分類及び政令番号

\* 2 化審法 : 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律における分類及び官報公示整理番号

\* 3 安衛法 : 労働安全衛生法 施行令 第 18 条の 2 別表第 9(名称等を通知すべき有害物)の政令番号

・充填比率 : 内容液 208mL (323g) 噴射剤 136mL (167g)

### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 蒸気・ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。直ちに医師の指示をあおぐ。
- 皮膚(又は毛)に付着した場合 : 直ちに、すべての汚染された衣服を脱ぎ多量の水と石鹸で洗う。  
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯をする。  
皮膚刺激を生じた場合は、医師の診断/手当を受ける。
- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な流水で十分に洗い流し、次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低 15 分間以上洗浄し、医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受ける。  
嘔吐物は飲み込ませない。医師の指示による以外は無理に吐かせない。

### 5. 火災時の措置

- 消火剤 : ・本液は不燃性なので、周辺の火災に対して適切な消火剤を選定し使用する。
- 使ってはならない消火剤 : -
- 特有の消火方法 : ・内容液は不燃性で着火しないが、容器の周辺で火災が起きた場合は、速やかに容器を安全な場所に移動する。加熱により容器が破裂する。また、内容液が炎により分解生成した有害ガスを吸入しないように注意する。  
・有毒ガスなどの発生、酸欠になる恐れがあるため適切な保護具を使用する。  
・火災の現場にエアゾール容器が有ると破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を充分とること。  
・風下に人を近づけない処置を行い、退路を確保の上、風上より消火活動を行う。  
・延焼を防ぐため、安全を確保の上、周囲の可燃物を除去する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、防火用保護具を着用する。

### 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時処置 : 必要な部署に通報し、応援を求める。  
漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。  
作業の際には、適切な保護具(保護手袋、保護マスク、ゴーグル等)を着用する。  
室内では換気をしっかり行う。屋外の場合は、出来るだけ風上から作業を行う。  
着火源・高温体及び付近の可燃物を取り除く。  
着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
- 環境に対する注意事項  
封じ込め及び  
浄化の方法及び機材 : 河川、下水、土壤等に流出されないように注意する。  
漏洩物は、密閉できる空容器等に回収し、安全な場所に移す。  
付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。  
少量の漏洩物は、必要に応じて乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収する。大量の流出には盛土で囲い流出を防止する。密閉できる空容器等に回収し、安全な場所に移す。  
衝撃、静電気にて火花を発生しないような材質の用具を用いて回収する。
- 二次災害の防止策 : 周辺の着火源となるものを速やかに取り除く。  
排水溝、下水道、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

### 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 「8. ばく露防止及び保護処置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気 : 「8. ばく露防止及び保護処置」に記載の局所排気、全体換気を行う。

- 安全取扱注意事項** : 火気厳禁。裸火や高温金属等に接触すると熱分解、有毒なガスを発生することがあるので、取扱いはこれらが近くにない場所で行う。  
漏洩させないようにするとともに、みだりに蒸気を発生させない。  
吸入・接触による災害を避けるために必要に応じて適切な保護具を着用する。  
換気の良い場所で作業を行う。  
中毒・酸欠防止のために適切な換気設備を使用し、環境濃度の管理を行う。
- 接触回避** : 「10. 安定性及び反応性」を参照
- 保管** : 漏洩の防止。換気の良い涼しい所に保管する。  
熱、静電気、火花などの着火源から離して保管する。  
雨水・直射日光を避け、錆の発生しやすい所に置かない。
- その他** : 法令の定めるところに従う。
- エアゾール製品は、さらに次の注意が必要である。  
高圧ガスを使用した可燃性の製品であり、危険なため下記の注意を守ること。  
1) 炎や火気の近くで使用しないこと。 2) 火気を使用している室内で大量に使用しないこと。  
3) 高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所や火気等の近くなど温度が 40 度以上となる所に置かないこと。 4) 火の中に入れてはいけないこと。 5) 使い切って捨てること。

### 8. 暴露防止及び保護措置

化学名 (成分名)	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会	ACGIH (TWA)
内容液 ジクロロペンタフルオロエタン HCFC-225ca HCFC-225cb HCFC-225ca/ HCFC-225cb ニトロメタン	メカ AEL (暫定)	記載なし	記載なし
	50ppm	緊急時暴露限界濃度 (メカ暫定値)	
	400ppm	HCFC-225ca/ HCFC-225cb 1,000ppm (15分)、2,000ppm (1分)	
	100ppm	記載なし	100ppm
噴射剤 フロン R-134a	設定なし	記載なし	1,000ppm (AIHA-WEEL)

- 設備対策** : 気中濃度を推奨された許容濃度以下に保つために、発生源の密閉化、排気装置 (局所排気装置、場合により全体換気装置) を付けて、蒸気が滞留しないようにする。  
取り扱い場所近くには、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
- 安全管理** : 必要に応じて適切な保護具を着用する。
- 保護具**
- 呼吸用の保護具 : 適切な呼吸器保護具を着用する。有機ガス用防毒マスク、必要に応じて送気マスク、空気呼吸器を着用する。
  - 手の保護具 : 適切な耐油性の保護手袋を着用する。
  - 眼の保護具 : 適切な保護眼鏡を着用する。
  - 皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣、顔面保護具を着用する。
- 衛生対策** : 取扱い後は、汚染箇所をよく洗う。

### 9. 物理的及び化学的性質

[内容液]

- ・外観 : 無色透明液体
- ・臭気 : エーテル臭
- ・沸点 : 51~56°C
- ・融点/凝固点 : データなし
- ・蒸気圧 : 0.038MPa (20°C) \*
- ・引火点 : なし
- ・爆発範囲 : データなし
- ・密度 : 1.568 (20°C)
- ・溶解度 : 0.033g/100g (25°C)
- ・揮発性 : あり
- ・発火点 : なし
- ・粘度 : データなし

\*印は、HCFC-225ca/ HCFC-225cb のデータ

[噴射剤]

- ・外観 : 無色気体
- ・臭気 : 特徴的な臭気
- ・沸点 : -26.18°C
- ・融点/融点 : -101°C
- ・蒸気圧 : 0.666MPa (6.79Kgf/cm<sup>2</sup> abs25°C)
- ・引火点 : データなし
- ・爆発限界 : データなし
- ・蒸気密度 : 3.52 (空気=1)
- ・比重 (液体) (20°C) : 1.206 (25°C)
- ・溶解度 (水) : データなし
- ・発火点 : データなし

### 10. 安定性及び反応性

[内容液]

- 安定性** : 常温常圧下では化学的に安定である。
- 危険有害反応可能性** : 熱分解させると、腐食性の強いふっ化水素、及び微量のふっ化カルボニル等の毒性ガスを生じる恐れがある。

- 避けるべき条件 : 高温、熱、スパーク、火気等の発火源を避ける。
- 混触危険物質 : アルカリ金属、アルカリ土類金属とは接触させないこと。  
(腐食性)アルミニウム合金はマグネシウム含有量が低い限り問題ではない。
- 危険有害な分解生成物 : ふっ化水素、及び微量のふっ化カルボニル等の毒性ガスを生じる恐れがある。  
[噴射剤]
- 安定性・反応性 : 通常の手扱いにおいては安定である。

**11. 有害性情報**

化学名 (成分名)	急性毒性	
	経口・経皮毒性	吸入毒性
HCFC-225ca	LD50 >5,000mg/kg (ラット)	LC50 37,300ppm/4H (ラット)
HCFC-225cb	LD50 >5g/kg (ラット)	LC50 36,800ppm/4H (ラット)
ニトロメタン	LD50 940mg/kg (ラット)	LCLo 1,000ppm (サル)

- 急性毒性(経口) : 区分外
- 急性毒性(経皮) : 分類できない。
- 急性毒性(吸入:蒸気) : 区分外
- 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 区分外
- 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 区分外
- 呼吸器感受性/皮膚感受性 : 分類できない。
- 生殖細胞変異原性 : 区分外
- 発がん性 : 分類できない。
- 生殖毒性 : 区分外
- 特定標的臓器毒性(単回ばく露) : (HCFC-225ca/ HCFC-225cb、噴射剤) 区分3 (麻酔作用)の記載等に基づき、本液においては区分3 (麻酔作用)とした。  
眠気又はめまいのおそれ
- 特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分外
- 吸引性呼吸器有害性 : 区分外

その他情報

: HCFC-225ca/ HCFC-225cb

	HCFC-225ca	HCFC-225cb
刺激性:	動物実験で、眼、皮膚に刺激性は認められず。	
急性毒性 吸入ラット:	LC50 37,300ppm/4hrs.	LC50 36,800ppm/4hrs.
経口ラット:	LD50 >5g/kg	LD50 >5g/kg
変異原性 エームズ:	陰性	陰性
染色体異常:	陰性(CHL細胞) 陽性(人リンパ球)	陰性(CHL細胞) 陽性(人リンパ球10%v/v 但し、5%v/vでは陰性。)

- 不定期DNA合成: (陰性) (陰性)
- 亜急性毒性:
  - ・HCFC-225ca、HCFC-225cbは、共にラットを用いた28日間の反復吸入試験において、5000ppm又はそれ以上の暴露により、試験動物の活動性と反応性が低下。毒性は肝臓にのみ認められ、この影響は、肝臓肥大とペルオキシゾームの誘導であった。
  - ・HCFC-225ca、HCFC-225cbは、共にラット、ハムスター、モルモットを用いた14日間の暴露試験において、肝臓への影響はげっ歯類では観察されたが、モルモットでは観察されなかった。
  - ・霊長類の一種であるマーモセットを用いた28日間の試験では、HCFC-225caは1000ppmでわずかな脂肪沈着が認められた。HCFC-225cbは5000ppmで催眠性、チトクロム P-450の増加が認められた。肝肥大、ペルオキシゾームの誘導は、HCFC-225ca、HCFC-225cbのいずれにも認められなかった。
- 発がん物質分類: 日本産業衛生学会(1995年度版)、ACGIH(1995-1996年度版)、NTP(1994年度版)、IARC(1993年度版)のいずれにも記載なし。

: ニトロメタン

- 発がん物質分類: IARCでグループ 2B(IARC 77, 2000)、日本産業衛生学会で2B(産業衛生学会勧告, 2005)、ACGIHでA3(ACGIH 7th, 2001)に分類されている。

## 12. 環境影響情報

- ・ GHS 分類では、オゾン層を破壊し、健康及び環境に有害。
- ・ 漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。特に内容物や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

水生環境有害性(急性)	: 区分外
水生環境有害性(長期間)	: 区分外
オゾン層への有害性	: 本液中に区分1の成分を約37%含有していることに基づき、本液では、区分1とした。

化学名(成分名)	水生環境有害性データ	分解性・濃縮性
HCFC-225ca	LC50 (48hrs.) 83.5mg/L (ヒメダカ)	活性汚泥では分解されにくい。(HCFC-225ca/ HCFC-225cb)、濃縮倍率 64 倍以下(HCFC-225ca)

- ・ オゾン破壊係数: 0.025 (CFC-11 を 1.0 とする。(HCFC-225ca))  
0.033 (CFC-11 を 1.0 とする。(HCFC-225cb))

\* 本製品の分解性データはありません。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物、汚染容器及び包装の記述とその安全な取扱いに関する情報:

- ・ 内容物、容器の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。
- ・ 空容器は、安全に配慮し内容物を完全に除去してから処分する。
- ・ 容器、機器装置等を洗浄した廃水等は、地面や排水溝にそのまま流さない。
- ・ 廃水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、及び関係する法規に従って処理を行うか、委託をする。
- ・ 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上で処理を委託する。

## 14. 輸送上の注意

国際規制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国連分類 : クラス 2.2 (非引火性高圧ガス)</li> <li>・ 国連番号 (UN No.) : 1950</li> <li>・ 容器等級 : ー</li> <li>・ 品名 : エアゾール</li> <li>・ 海上規制情報 : IMO の規定に従う。</li> <li>・ 航空規制情報 : ICAO/IATA の規定に従う。</li> </ul>
国内規制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 陸上規制情報 : 消防法ほか法令の規制に従う。</li> <li>・ 海上規制情報 : 船舶安全法の規制に従う。</li> <li>・ 航空規制情報 : 航空法の規制に従う。</li> </ul>
緊急時応急処置指針番号	: 126
特別の安全対策	: <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 容器に漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。</li> <li>・ 「7. 取扱い及び保管上の注意」記載の一般的注意に従う。</li> <li>・ 関連法規に基づいて輸送する。</li> </ul>

## 15. 適用法令

- ・ 消防法 : 該当しない
- ・ 労働安全衛生法 : 表示対象物質(法第 57 条、施行令第 18 条第 1 号別表第 9) : 該当しない  
通知対象物質(法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9) : ニトロタン  
危険物(施行令別表第 1) : 該当しない  
有機溶剤中毒予防規則 : 該当しない  
特定化学物質等障害予防規則 : 該当しない
- ・ 毒物及び劇物取締法 : 該当しない
- ・ 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) : ジクロロペンタフルオロエタン(HCFC-225)
- ・ 危険物船舶運送及び貯蔵規則 : 非引火性高圧ガス(クラス 2.2)
- ・ 特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律 : (付属書 C グループ 1 指定物質 HCFC-225)
- ・ 輸出貿易管理令 : 別表第 2-35 に該当(モントリオール議定書関係)

## 16. その他の情報

参考文献:

- ・ 製品安全データシート作成指針(社団法人 日本化学工業協会)
- ・ 独立行政法人 製品評価技術機構(NITE) GHS 分類結果

- ・日本塗料工業会「GHS 対応 SDS・ラベル作成ガイドブック[混合物用(塗料用)]」
- ・JIS Z 7252 : 2014「GHS に基づく化学物質等の分類方法」
- ・JIS Z 7253 : 2012「GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
- ・栄進化学(株)社内資料(各材料メーカー提供の安全データシート)

責任の限定について :

- ・本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改正されることがあります。また、注意事項は通常の実用を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用下さい。
  - ・本文書の記載内容は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。すべての化学品は、未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任に於いて、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。
-